

このプリントは、加藤のサイト
「京劇「霸王別姫」を楽しむための講座」
http://p.tl/_aAW からの抜粋です。



【略年表】★紀元前3世紀の物語★

- 前202年、項羽(前232-前202)が「楚漢戦争」の末に敗死
 - 前91年ごろ、司馬遷による歴史書『史記』が成立。
 - 1922年(大正11)、梅蘭芳(メイランファン 1894-1961)が京劇「霸王別姫」を北京で初演。
 - 1956年(昭和31)、梅蘭芳らの来日公演。「霸王別姫」海外初公演。
 - 1993年(平成5)、中国映画「さらば、わが愛／霸王別姫」公開。
 - 2014年(平成26) 梅蘭芳生誕120周年。
- (参考) 殷→周(西周)→春秋・戦国時代→秦の始皇帝→秦末群雄→楚漢戦争→前漢…

【京劇「霸王別姫」の主な登場人物について】★まず6人の名前を覚えよう★

楚：項羽(くまどりの豪傑)、虞姫(悲劇の美女)、虞子期(虞姫の弟で美男子)。
漢：劉邦(漢王。後に前漢の初代皇帝)、韓信(劉邦軍の司令官)、李左車(韓信の部下)。

【関連する故事・成語】★今の日本語でも使われている★

虞美人草…虞妃の故事
四面楚歌、拔山蓋世、捲土重来…項羽の故事
將に將たる器…劉邦の故事
敗軍の將は兵を語らず…李左車の名言
韓信の股くぐり、國土無双、背水の陣、多々益々弁ず…韓信の故事



<http://www.rakugi.net/>

【項羽を追いつめるための策略】★史実を脚色した権謀術数も含む★

1. 天下を東西に分割統治する約束を劉邦が破る。
2. 李左車がスパイとして項羽の陣営にもぐりこむ。
3. 李左車は項羽をだまし、騎馬戦に不利な山道におびき出す。
4. 李左車は項羽を挑発する。項羽は怒って深追いしてしまい、術中にはまる。
5. 韓信は、項羽を包囲したうえで、「四面楚歌」の神経戦をしかける。
6. 落ちのびる項羽の前の渡し舟も、実は罠(愛馬の犠牲的行為のためこの罠は不発)
7. 項羽は、同郷の友・呂馬童によって心理誘導され「捲土重来」のチャンスを失う

【京劇の演技の約束ごと】★「写実」の演技と「写意」の演技★

- くまどりの顔は豪傑の役を表す。項羽のくまどりのデザインは「黒十字門鋼叉臉」。
- 登場人物の身分は「衣冠」で表す。無帽は、極度の混乱を表す。
- 武將が手に鞭をもつと、馬に乗っていることを表す。

- 武将クラスは^{おおよろい}大鎧と^{やり}槍で武装し、^{あつぞこ}厚底の靴をはく。戦う時は馬に乗る。
- 歩兵は軽装で、^{うすぞこ}薄底の靴をはき、武器は刀などをもつ。
- 人物の両脇を二枚の「車旗」ではさむと、馬車に乗っていることを示す。
- 敵味方は「^{はたさしもの}旗指物」で表す。
 - 「項」「劉」「韓」の「姓字旗」は、それぞれ項羽、劉邦、韓信の軍の旗。
- 黄色は天子(皇帝)だけが使える色である。項羽は事実上の皇帝だったので、虞姫の衣装の色も黄色。劉邦は当時、まだ皇帝より格下の「漢王」だったので、オレンジがかった黄色である「^{きょうおうしよく}杏黄色」の服を着る。
- 夜の場面でも舞台は明るいままで、歌やセリフ、目の演技で周囲の暗さを表す。

【京劇界のことわざ】★代々の役者が語りついできた言葉★

北京学芸、天津驗収、上海走紅。

北京で芸を学び、天津で^{しゃんはい}チェックを受け、上海で有名になる。

旦角要媚不要美、花臉要美不要媚。

女役(例えば虞姫)は^び美よりも^び媚、くまどりの役(例えば項羽)は媚よりも美。

不像不成戲、真像不是芸。

それらしくなきや芝居じゃない。そのまんまなら芸じゃない。

【今回の公演で使う楽器】★音色を聞き分けられると楽しいよ★

○旋律楽器・・・^{きょうこ}京胡と^{てんしん}京二胡(音色はバイオリン的)。^{げっきん}月琴(マンドリン的)。^{たいげん}大阮(ベース的)。^{さどつ}嗩吶(チャルメラ的) ○打楽器・・・^{たんばん}檀板・^{にようばち}単皮鼓、大鑼、小鑼、鐃鈸。

【司馬遷『史記』項羽本紀より】★高校の漢文の授業で習ったかも★

項王の軍、垓下に壁す。兵少なく食尽く。漢軍及び諸侯の兵、之を囲むこと数重なり。(コウオウのグン、ガイカにヘキす。ヘイスクなくショクツク。カンゲンオヨビショコウのヘイ、コレをカコむことスウチョウなり。) 夜、漢軍の四面に皆楚歌するを聞き、項王乃ち大いに驚きて曰く「漢、皆已に楚を得たるか。是れ何ぞ楚人の多きや」と。(ヨル、カンゲンのシメンにミナソカするをキキ、コウオウスナワちオオいにオドロきてイワク「カン、ミナスデにソをエたるか。コレナンゾソヒトのオオキや」と。) 項王、則ち夜起ちて帳中に飲す。美人有り、名は虞、常に幸せられて従ふ。駿馬あり、名は騅、常に之に騎す。(コウオウ、スナワちヨルタちてチョウチュウにインす。ビジンアリ、ナはグ、ツネにコウせられてシタガウ。シュンメアリ、ナはスイ、ツネにコレにキス。) 是に於て、項王乃ち悲歌慷慨し、自ら詩を為りて曰く、(ココにオいて、コウオウスナワちヒカコウガイし、ミズからシをツクリてイワク、)

力拔山兮氣蓋世 時不利兮騅不逝 騅不逝兮可奈何 虞兮虞兮奈若何

「力、山を抜き、氣、世を蓋ふ。時、利あらずして騅逝かず。騅の逝かざる、奈何とすべき。虞や虞や若を奈何せん」と。(チカラ、ヤマをヌキ、キ、ヨをオオウ。トキ、リあらずしてスイユかず。スイのユかざる、イカンとすべき。グヤグヤ、ナンジをイカンせん)と。) 歌ふこと数闋。美人、之に和す。項王、泣数行下る。左右皆泣き、能く仰ぎ視るもの莫し。(ウタウことスウケツ、ビジンコレにワす。コウオウ、ナンダスウギョウクダる。サユウミナナキ、ヨクアオギミるものナシ。)